

## 天理日仏文化協会こども日本語講座の取り組み③

### 2) 子供への日本語教育の実情と課題 (前号よりの続き)

#### 最大の悩みは、落ち着きのない子供たちへのアプローチ

前述の教科書や、教材作成などの学習指導に関する問題点もさることながら、教師たちは、授業中に騒がしくする子供たちを、いかに落ち着いて授業に集中させるか、という生活指導 (躾) に苦慮していた。

本校は、教室が狭いこともあるが、日本語の理解能力差がある日仏のバイリンガルの子供たちへ、きめ細やかな指導をするために、1クラスの定員を10人まで (幼稚園科は8名) としている。そんな少人数制にもかかわらず、特に幼稚園や低学年のクラスには、いくら注意しても、奇声を発し、勝手に立ち歩くなど、落ち着きのない子供がいる。そのために他の子供たちまでも騒がしくなり、なかなか予定通りに授業が進められないということだった。また、中、高学年のクラスからは、授業中に話を聞かず、フランス語でのおしゃべり (私語) ばかりする子や、宿題や学用品の忘れ物をし、学習態度も無気力な子供への指導に苦慮しているなどの問題点も挙げられた。

このような問題への対処は、実際にいくつかのクラスを見学しても、かなり難しいことが推察できた。その原因が、教師の指導力の問題なのか、子供たち自身の理解力の問題なのか、発達の問題なのかは、これから時間をかけて判断し、対策を練らなければならない。ただ、問題行動の多い子供を抱えるクラスの担任は、体力的にも、精神的にもかなり厳しい状態で、授業に臨んでいるのは確かだった。これまでの小学校での指導経験からも、学習面と生活面 (躾) を、車の両輪のごとくバランスを取って指導することで、学級経営は円滑に進められると実感している。しかし、1週間に1度の日本語補習校の限られた時間の中で、どのように学級経営と、学校経営を実践していくかが、今後の大きな課題であり、やりがいのある仕事になることは間違いなかった。

### 3) 子供への日本語教育の課題を考える

#### 「小1プロブレム」に学ぶ躾の徹底と学校経営

本校の教師たちが抱える学級経営の悩みと同じように、日本の小学校でも、1年生のクラス担任が、子供たちの持つ個々の社会性や能力差に対応しきれず、子供たちやその保護者たちの不信感も加わって、学級が崩壊していくいわゆる「小1プロブレム」が問題になって久しい。

子供の能力は、知能テストで判断される知能といわれるものの他に、生来の性格、月齢差や家庭環境などが影響する物事の理解能力なども作用して、千差万別である。教師は、その一人ひとり違う能力を持った子供たちに、指示を正しく理解させるために、言葉の意味や約束事などを、囁んで含めるように繰り返し説明し、時間をかけて指導しなければならない。

実際に、1年生の1学期間は、名前を呼ばれた時の「はい」という返事から、トイレの使い方、廊下の歩き方、掃除をするためのぞうきんのしぼり方、給食の食べ方に至るまで、ほとんどが躾の指導に費やされると言っても過言ではない。小学校の教師に指示される言葉も、子供たちにとっては、今まで幼稚園や家庭で聞いていた日本語と比べると、まるで外国

語のように違って聞こえるのだ。たとえば、幼稚園では、「女の子、男の子」と言われていたのが、「女子、男子」となり、「〇〇ちゃん」と一人ひとりに呼んでもらっていた名前も、「みなさん」と、全員に対する指示が増えるなど、語彙が変わってくるからである。

このように、日本の子供たちでさえ、同年齢でも理解できる語彙は、個々の能力や社会性による差がある。ましてや、フランス文化の中で暮らしている本校の子供たちの戸惑いと不安は、遙かに大きいと違いない。まずは、その負担も理解した上で、本校の指導理念に基づいた日本語を学ぶための約束事を提示し、理解させ、守らせるという躾の徹底から始めようと考えた。そうした地道な取り組みと、教育への思いを発信し続けられれば、運営する学校側と教師たちと子供たち、さらには保護者たちとの信頼関係も深まり、自然に日本語学習に対する姿勢も変えられるはずだと思えてきたのである。

#### 学校の教育基本方針を掲げる～「三つの約束」

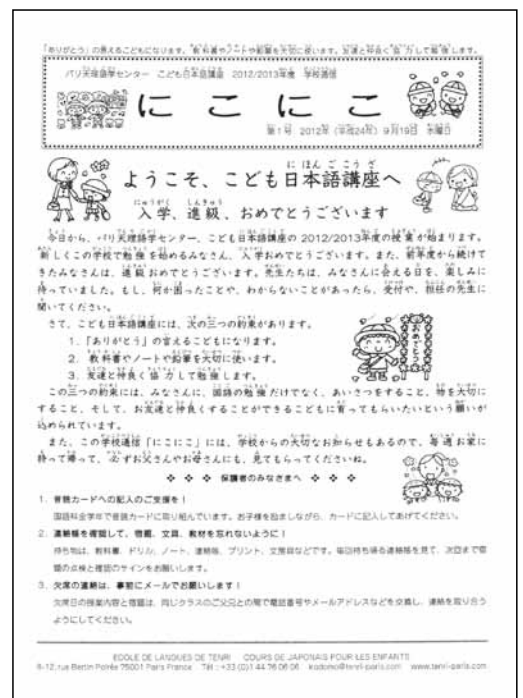
保護者に対しては、6月の年度末の入学説明会で配布する申し合わせ事項に、子供にも理解しやすい言葉で、「三つの約束」に始まる本校の教育方針を掲げるとともに、躾はもとより、持ち物や問題行動への対処法まで明記した説明書を作成し、理解を得ることにした。

##### 「三つの約束」

- ・「ありがとう」の言える子どもになります。
- ・教科書やノートや鉛筆を大切に使います。
- ・友達と仲良く協力して勉強します。

また、こうした約束を徹底し、「にここにこと、楽しく日本語を学ぼう」という思いを込めて、2006年9月から、毎週 (年間34回)、A4版1枚の「学校通信 にここに」を発行することにした。その内容は、表面には、学校行事や日本の季節の行事、学習態度やマナーに関する話、裏面には、クラスごとの日記や

作文の紹介などを織り込むことにした。全校の子供たちが、この通信を読み合ううちに、「天理の生徒」としての仲間意識が芽生え、刺激を受け、日本語学習への興味をより深く持てるようにとの願いを込めて、ひたすら文章を書き続けることになった。



「学校通信 にここに」